

北海道公立大学法人札幌医科大学理事長の業務執行状況の 確認について

令和6年10月30日
北海道公立大学法人札幌医科大学
理事長選考会議

北海道公立大学法人札幌医科大学理事長の業務執行状況の確認に関する要領に基づき、山下 敏彦 理事長の業務執行状況を確認したので、その結果を公表します。

1 確認対象期間

令和4年4月1日から令和6年3月31日まで（理事長就任後2年間）

2 確認方法

北海道公立大学法人札幌医科大学理事長の業務執行状況の確認に関する要領第3条に基づき、業務実績報告書、所信表明等の執行状況を確認するとともに、理事長ヒアリングを実施し、業務執行状況の確認を行った。

（1）書面による確認

確認書面は次のとおりである。

ア 第3期中期目標期間における業務実績報告書

イ 財務諸表

ウ 監査報告書

エ 理事長選考時の選考基準

オ 理事長選考時の所信表明の内容

カ 理事長による業務執行状況報告書

（リーダーシップ、ガバナンス、教育、研究、社会貢献、地域貢献、法人運営等に係る理事長からの報告書）

（2）理事長ヒアリングによる確認

理事長からの業務執行における自身の考え方や成果などの報告を交え、業績等を確認。

3 確認結果

上記2の確認書面及び理事長ヒアリングを踏まえて、理事長の業務執行状況を確認したところ、「最高レベルの医療で、道民の健康を守る」との決意のもと、就任時に掲げた将来構想の実現に向け、スピード感をもって着実に取り組んできており、北海道公立大学法人札幌医科大学の理事長として、その職責を十分に果たし、適切に業務を執行していると認められる。

特に次の点について、高く評価できる。

- ・ 就任以来、理事長自ら学内における取組やトピックスについて、毎月配信するほか、メディアや提携企業との連携による広報機能の充実など、発信力の強化を図るとともに、大学の更なる活性化を目的とした「UI（university identity）推進プロジェクト」を始動させるなど、大学全体の活動気運の醸成に尽力している。

- ・ 建学の精神である「地域医療への貢献」を果たすため、優秀な医療人を育成するほか、北海道と連携した医師派遣や地域の医療機関への診療支援等の取組を行うとともに、新型コロナウイルス感染症の影響下においては、重症患者の受入、エクモカーによる搬送等を行うなど、道内医療機関の中核として、機能の発揮に尽力した。
- ・ 研究や医療の面において、「先端医療研究推進センター」の新設による研究活動の活性化や競争的研究資金の獲得促進、健康管理アプリを用いた次世代医療の運用開始、ICTを用いた遠隔医療の体制構築、スポーツ医・科学分野の研究・支援体制の構築など、先端的な取組を牽引している。

なお、学内における課題に関連し、次の点について、一層の発展的取組に期待するものである。

- ・ 患者数の減少、施設の改築などによる影響が続き、厳しい運営状況にある中、継続した収支改善対策を講じることに加え、更なる戦略的な取組を行うなど、法人経営の健全化に尽力すること。
- ・ パワーハラスメントやアカデミックハラスメントなどのコンプライアンスに関わる諸問題に対して、再発・未然防止に向けた更なるガバナンス体制の構築に尽力すること。

全体を通じて、今後も、本学の理念である「最高レベルの医科大学」を目指すため、理事長の積極的なマネジメントの発揮によるリーダーシップのもと、適切な法人運営と更なる発展に尽力されることを期待する。

(参考)

○ スケジュール

第1回理事長選考会議	7月30日	手順書作成 理事長への業務執行状況報告書の作成依頼
第2回理事長選考会議	9月2日	理事長から提出された業務執行状況報告書及び確認書面の確認 理事長ヒアリングに向けた手順の確認
第3回理事長選考会議	9月9日	理事長ヒアリング
第4回理事長選考会議	9月19日	業務執行状況確認結果のとりまとめ

○ 理事長選考会議委員

- ・ 鈴木 一博 (副理事長)
- ・ 齋藤 豪 (医学部長)
- ・ 片寄 正樹 (保健医療学部長)
- ・ 渡辺 敦 (附属病院長)
- ・ 太田 三夫 (弁護士)
- ・ 山本 邦彦 (元北海道副知事)